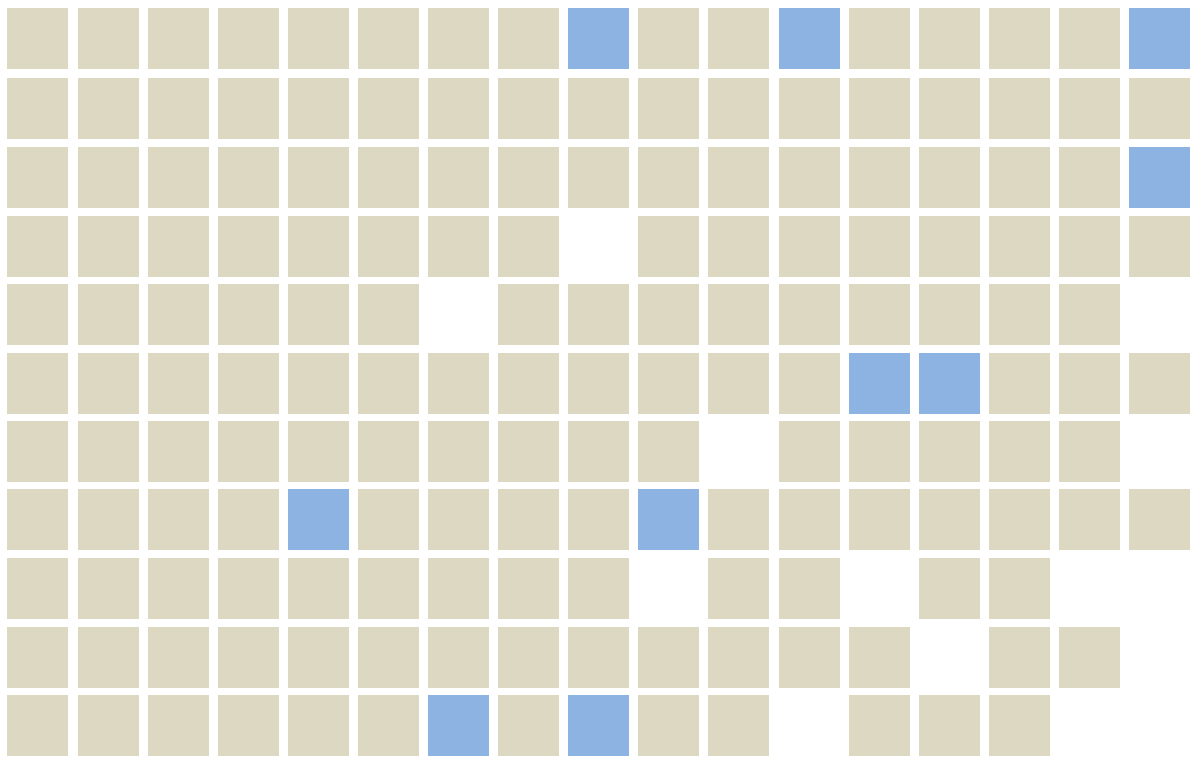


茨城県就学前教育・家庭教育実態調査結果報告書
【施設編】

平成29年1月
茨城県教育委員会

目 次

I	調査の目的・方法等	1
	(1) 調査目的	3
	(2) 調査対象	3
	(3) 調査方法	3
	(4) 調査項目	4
	(5) 回収状況	5
	(6) 本報告書を読む際の留意点	5
II	調査結果概要	7
III	調査結果	13
1	施設の概要について	15
	(1) 施設の区分	15
	(2) 教職員の人数及び資格	16
2	教職員の資質向上について	17
	(1) 教職員を対象とした研修への参加状況	17
	(2) 教職員を対象とした研修に関する考え	18
	(3) 教職員の資質向上についての課題	21
3	幼保小連携について	23
	(1) 幼保小連携の状況	23
	(2) 幼保小連携を進めるために必要なこと	24
4	小学校への入学について	27
	(1) 小学校入学までに、子どもたちに身に付けて欲しいこと	27
5	読書について	32
	(1) 絵本の読み聞かせの頻度	32
	(2) おすすめの絵本の紹介	32
6	家庭教育について	34
	(1) 施設で実施している家庭教育支援・子育て支援	34
	(2) 家庭における教育力の変化	36
	(3) 家庭教育を補う施設の取組	37
IV	資料	39
	(1) 調査票	41
	(2) 単純集計表	46



I 調査の目的・方法等



(1) 調査目的

本調査は、茨城県の就学前教育・家庭教育の実態を明らかにし、就学前教育・家庭教育の今後のあり方を検討する際の基礎とするとともに、就学前教育・家庭教育ビジョン（仮）の策定に反映することを目的とする。

(2) 調査対象

本調査は悉皆調査とし、茨城県内の幼稚園、保育所、認定こども園 全 869 施設を調査対象とする。

(3) 調査方法

調査方法は、郵送調査法（郵送配布・郵送回収）を用い、調査期間は平成 28 年 9 月 1 日から 9 月 9 日までとした。

■調査対象の構成

	総数		有効回答		有効回答 と総数の 差(%)
	実数 (施設)	割合(%)	実数(票)	割合(%)	
総数	869	100.0	671	100.0	-
施設の区分	869	100.0	666	99.3	-0.7
幼稚園	234	26.9	196	29.2	2.3
保育所	465	53.5	332	49.5	-4.0
認定こども園	170	19.6	138	20.6	1.0
施設の国立・公立・私立の区分	869	100.0	659	98.2	-1.8
国立	1	0.1	1	0.1	0.0
公立	326	37.5	282	42.0	4.5
私立	542	62.4	376	56.0	-6.3

総数は、平成 28 年 9 月 1 日現在
有効回答総数は 671 だが、表中では区分別の無効回答を除いた票数を示してある

(4) 調査項目

■ 施設の概要について	
問 1	幼稚園・保育所・認定こども園の区分
問 2	施設の国立・公立・私立の区分
問 3	教職員の人数及び資格（平成 28 年 4 月 1 日現在）
■ 教職員の資質向上について	
問 4	平成 27 年度に実施された教職員を対象とした研修について
問 5	どのような研修だと参加しやすいですか。
問 6	今後、充実が必要と考える研修内容
問 7	教職員の資質向上についての課題
■ 幼保小連携について	
問 8	施設と小学校との現在の交流の状況
問 9	幼保小連携を進めるために必要な交流の内容
問 10	今後、幼保小連携を進めるために必要と思われるもの
■ 小学校への入学について	
問 11	小学校入学までに「家庭」での教育において、子どもたちに身に付けて欲しいこと
問 12	小学校入学までに「施設」での教育において、子どもたちに身に付けて欲しいこと
■ 読書について	
問 13	貴施設において 1 週間あたりどの程度、絵本の読み聞かせを行っていますか。
問 14	貴施設では、保護者におすすめの絵本の紹介をしていますか。
■ 家庭教育について	
問 15	貴施設で実施している家庭教育支援・子育て支援の内容
問 16	家庭における教育力が昔（30 年程度前）に比べてどのように変化していると感じますか。
問 17	家庭教育を補うものとして貴施設ではどのような取組が必要だと思いますか。
問 18	家庭教育を補うものとして、今後、地域にはどのようなことを期待しますか。
問 19	家庭教育を補うものとして、今後、行政（県、市町村）にはどのようなことを期待しますか。
■ 自由意見	
問 1	就学前教育について、ご意見があれば自由にお書きください。
問 2	家庭教育について、ご意見があれば自由にお書きください。
問 3	地域教育（近隣住民との関わり）について、ご意見があれば自由にお書きください。

(5) 回収状況

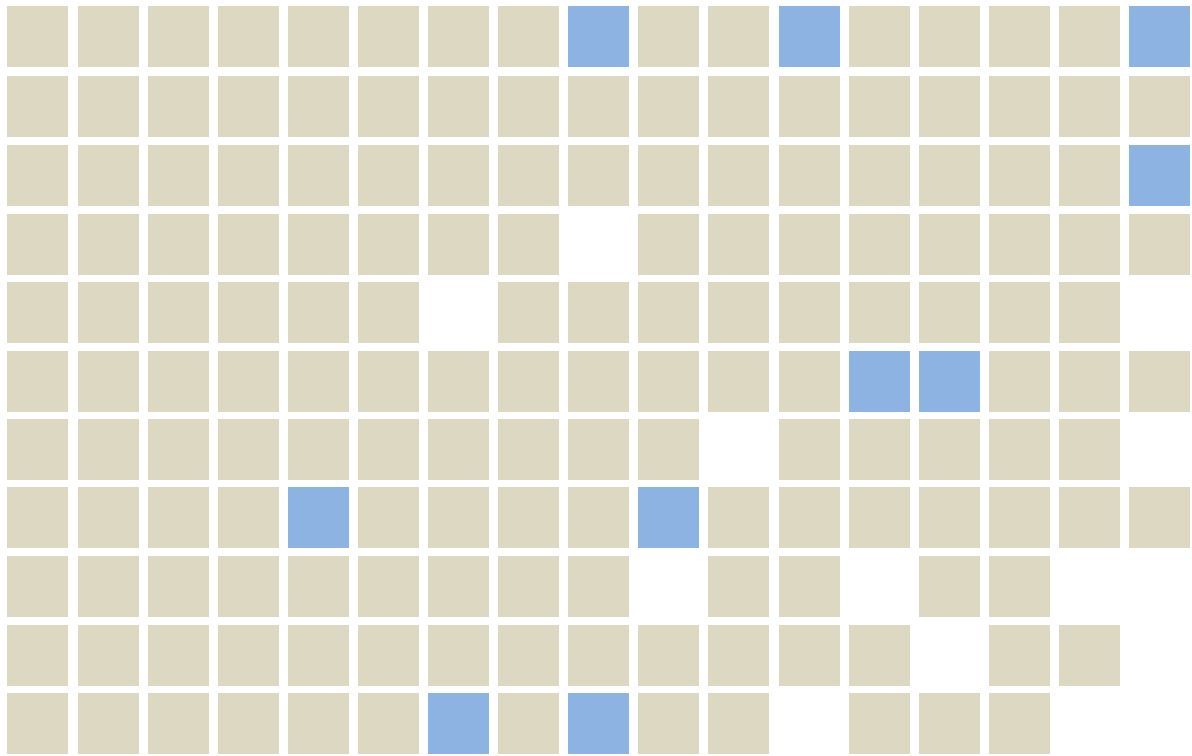
対象 869 票に対し、回収された調査票は 671 票である。無効票はなかったため、671 票を有効回答票とした。有効回収率は 77.2%である。

■有効回収率

項目	票・%	備考
発送数	869	
調査不能(未着)	0	
回収数	671	
無効回答数	0	
有効回答数	671	回収数 - 無効回答数
有効回収率	77.2%	有効回答数 / 発送数

(6) 本報告書を読む際の留意点

- グラフ中の「SA」は単数回答の、「MA」は複数回答の集計結果を表し、「n=〇〇」はサンプル数を表す。グラフ内数値や表の単位は、特に断りのない限り「%」である。
- 本文グラフ及び表では、無回答や無効回答を除いて集計した。
- 単数回答の単純集計結果を表す本文グラフの中で、百分率の内訳数値は、四捨五入の結果、合計が 100.0 にならない場合もある。
- 複数回答の集計結果を表すグラフまたは集計表の場合、「%」は選択肢の構成比を表すものではなく、回答のあったサンプル数に対する割合を示している。
- 本文中コメントでは、およその傾向を概括するために「〇割」と「〇%」という表現を併用している。設問の選択肢を引用する場合は、省略して表現している場合もある。
- その他の選択肢のある設問については、代表的回答を掲載した。
- 自由回答式の設問については、原則として回答者の記入したとおりに引用・掲載しているが、明らかな誤字・脱字等については修正してある。



II 調査結果概要



1 施設の概要について

●施設の区分

回答のあった施設の区分は、「幼稚園」が29.4%、「保育所」が49.8%、「認定こども園」が20.7%となっている。

また、国立・公立・私立の区分は、「公立」が42.8%、「私立」が57.1%となっている。

●教職員の人数及び資格

全教職員数（事務職員は除く）11,061人のうち、約9割（87.1%）が保育士と幼稚園教諭の両方の資格を持っているという結果となった。

2 教職員の資質向上について

●教職員を対象とした研修への参加状況

平成27年度に実施された教職員を対象とした研修の参加回数は、「0～20回」が約6割（65.8%）にのぼっており、次いで「21～40回」（24.7%）、「41～60回」（7.0%）となっている。

研修への1回当たりの参加人数（平均）は、「0～5人」が8割以上（88.6%）を占めている。

●教職員を対象とした研修に関する考え

参加しやすいと考える研修については、「市町村主催の講座」（66.0%）が最も高く、次いで「園・所内研修への大学の教員や指導主事等による訪問指導」（43.5%）、「施設が行う自主的な研修への支援」（39.3%）となっている。また、休日の開催や経費のかからない研修など、時間や費用に関する回答もあった。

今後充実が必要と考える研修内容については、「特別な支援を必要とする子どもへの対応（発達障害等）」（79.7%）、「幼保小連携などの新しい幼児教育の内容」（71.7%）、「教育・保育の指導方法」（70.0%）が、それぞれ7割を超える結果となった。また、子どもや教職員のメンタルケアや、保護者への対応の仕方など、指導方法や教育内容以外の回答もあった。

●教職員の資質向上についての課題

教職員の資質向上の課題については、「教職員が研修を受ける余裕がない」（60.8%）が約6割と最も高い。他は「現在のニーズに合った研修が少ない」（21.9%）、「教職員の資質を向上させる体制が出来ていない」（21.3%）、「教職員の仕事へのモチベーションが低い」（19.1%）、「離職する教職員が多く、経験を積んだ教職員が少ない」（16.2%）となっている。

3 幼保小連携について

●幼保小連携の状況

施設と小学校との現在の交流の状況については、「年数回の授業、行事、研究会などの交流はあるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない」(51.3%)が約半数を占めている。また、「連携・接続に着手したいが、まだ、検討中である」(16.5%)、「連携の予定・計画がまだ無い」(16.2%)を合わせた8割以上(84.0%)が、連携・接続を見通した教育課程の編成・実施ができていないと考えられる。

●幼保小連携を進めるために必要なこと

幼保小連携を進めるために必要な交流の内容については、「幼児同士や幼児と小学校児童との交流」(72.6%)、「教職員同士の相互訪問(活動見学)の実施」(71.2%)が、いずれも7割を超えている。施設区別にみると、特に幼稚園で「幼児同士や幼児と小学校児童との交流」(82.1%)、「教職員同士の相互訪問(活動見学)の実施」(82.7%)が高い割合を占めている。

今後、幼保小連携を進めるために必要と思われるものについては、「人員配置や時間的な余裕」(67.2%)が最も高く、次いで「幼保小連携に関する講演会、効果的な手法に関する情報(先進事例など)」(50.8%)、「学習指導要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」に関する勉強会の開催」(37.9%)となっている。

4 小学校への入学について

●小学校入学までに、子どもたちに身に付けて欲しいこと

「家庭」での教育で子どもたちに身に付けて欲しいことについては、「早寝・早起き」(93.3%)、「朝ごはんの習慣」(92.8%)が、それぞれ9割を超えている。次いで「あいさつ・返事」(84.8%)も8割を超えており、生活習慣に関する項目が高い割合を占めている。

一方、「施設」での教育においては、「ルール・約束を守ること」(90.2%)が最も高く、次いで「他人の話を最後まで聞くこと」(85.1%)、「自分の考えを相手に伝える力」(84.5%)となっている。

5 読書について

●絵本の読み聞かせの頻度

絵本の読み聞かせについては、約9割(90.2%)が「ほぼ毎日、読み聞かせを行っている」と回答している。また、「読み聞かせはほとんど行っていない」(0.0%)と回答した施設がないことから、ほとんどの施設において、1週間に1日以上は読み聞かせを行っていると考えられる。

●おすすめの本の紹介

保護者へのおすすめの本の紹介については、「している」(56.3%)、「していない」(43.7%)

となっており、絵本を紹介していると回答した施設の割合がやや高くなっている。

施設区分別でみると、保育所が「している」(64.4%)、「していない」(35.6%)と、特に「している」割合が高くなっている。一方、幼稚園では「している」(45.9%)、「していない」(54.1%)となっており、「していない」割合がやや高くなっている。

6 家庭教育について

●施設で実施している家庭教育支援・子育て支援

施設で実施している家庭教育支援・子育て支援の内容は、「施設開放」が約7割(67.8%)と最も高く、次いで「子育て情報の提供」(58.6%)、「祖父母との交流」(52.3%)となっている。

施設区分別にみると、幼稚園では「預かり保育」が約8割(77.6%)、保育所では「施設開放」「子育て情報の提供」(65.7%)が6割を超えており、認定こども園では「施設開放」が約8割(81.9%)と高い割合を占めている。

●家庭における教育力の変化

家庭における教育力について、昔(30年程度前)と比べて「低下した」(52.4%)、「やや低下した」(34.3%)と回答した割合が8割(86.7%)を超えている。一方、「向上した」(2.9%)、「やや向上した」(2.3%)は1割以下(5.2%)という結果となった。

●家庭教育を補う施設の取組

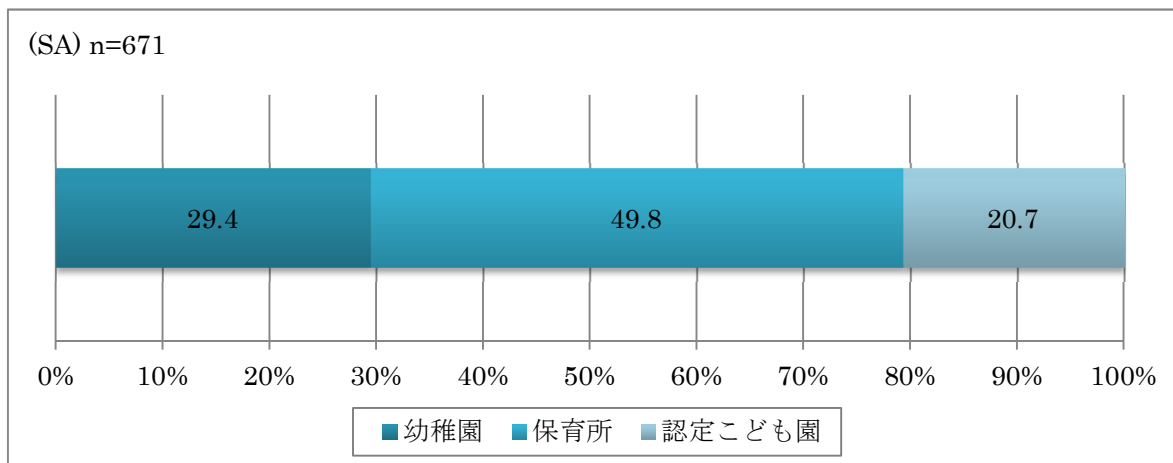
家庭教育を補うものとして施設で取り組む必要があるものは、「保護者が抱える教育や子育ての悩みを専門家に相談する機会の提供」(64.2%)が6割以上と最も高く、次いで「保護者が抱える教育や子育ての悩みを保護者同士が相談し合う機会や場の提供」(54.5%)となっている。

1 施設の概要について



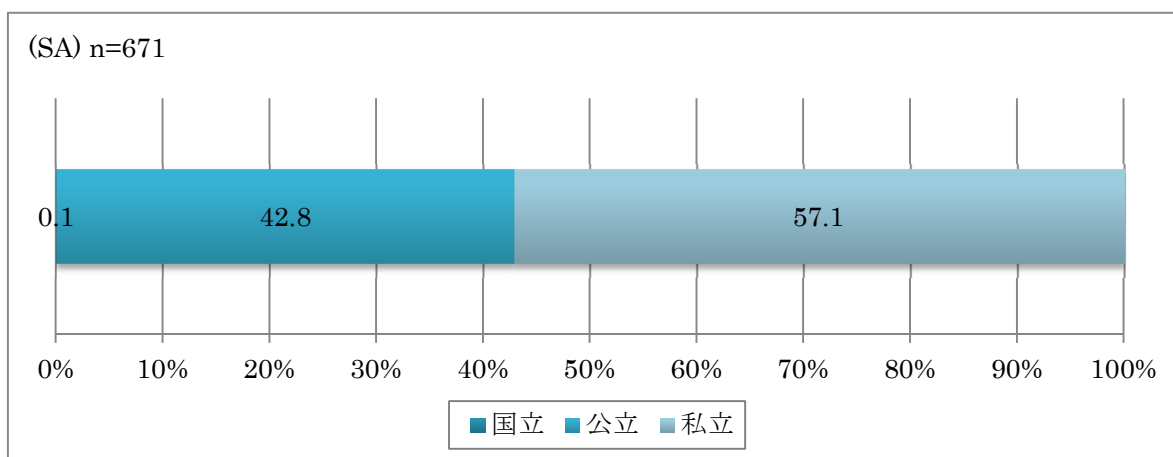
(1) 施設の区分

問1 幼稚園・保育所・認定こども園（以下、「施設」とします）の区分



回答のあった施設の区分は、「幼稚園」が29.4%、「保育所」が49.8%、「認定こども園」が20.7%となっている。

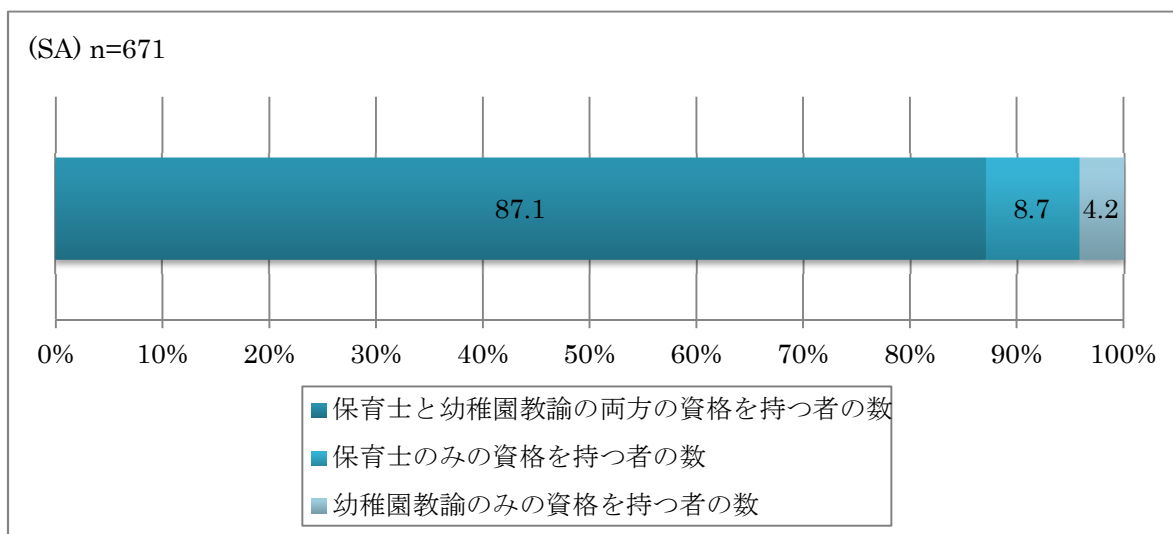
問2 施設の国立・公立・私立の区分



回答のあった施設の国立・公立・私立の区分は、「公立」が42.8%、「私立」が57.1%となっている。

(2) 教職員の人数及び資格

問3 教職員の人数及び資格（平成28年4月1日現在）



全教職員数（事務職員は除く）11,061人のうち、約9割（87.1%）の教職員が保育士と幼稚園教諭の両方の資格を持っているという結果となった。

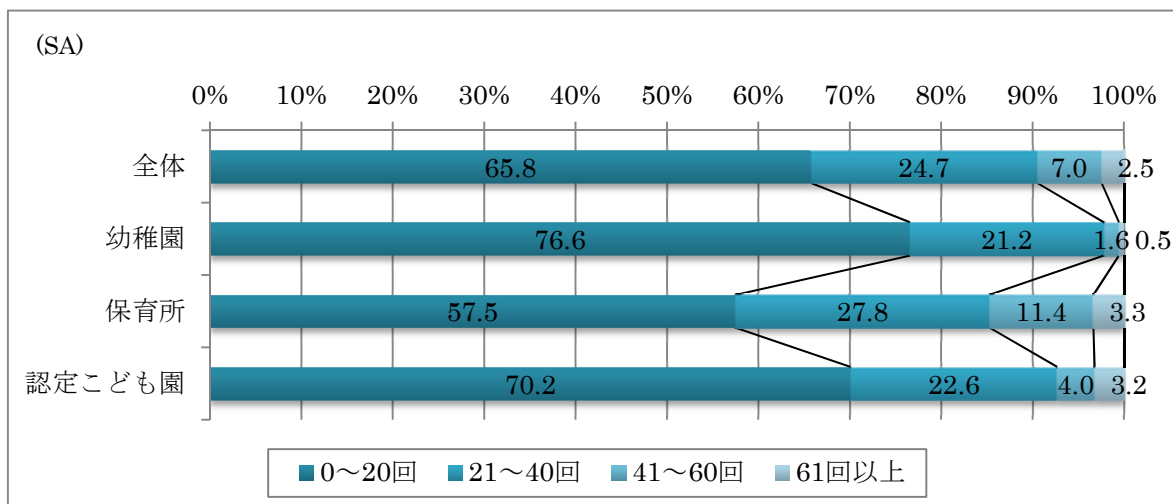
2 教職員の資質向上について



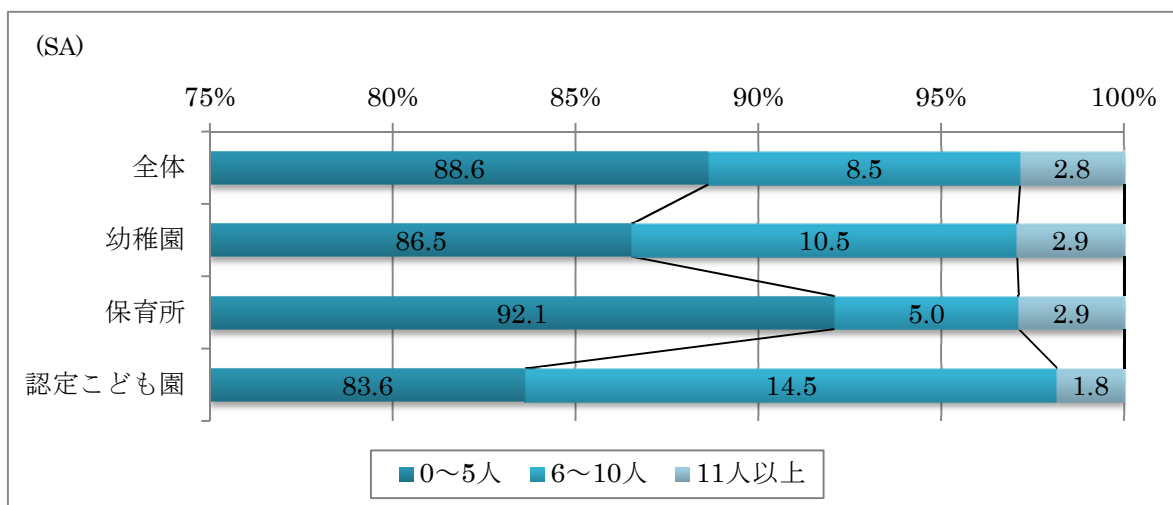
(1) 教職員を対象とした研修への参加状況

問4 平成27年度に実施された教職員を対象とした研修について

【研修への参加状況（合計）】



【研修への1回当たりの参加人数（平均）】



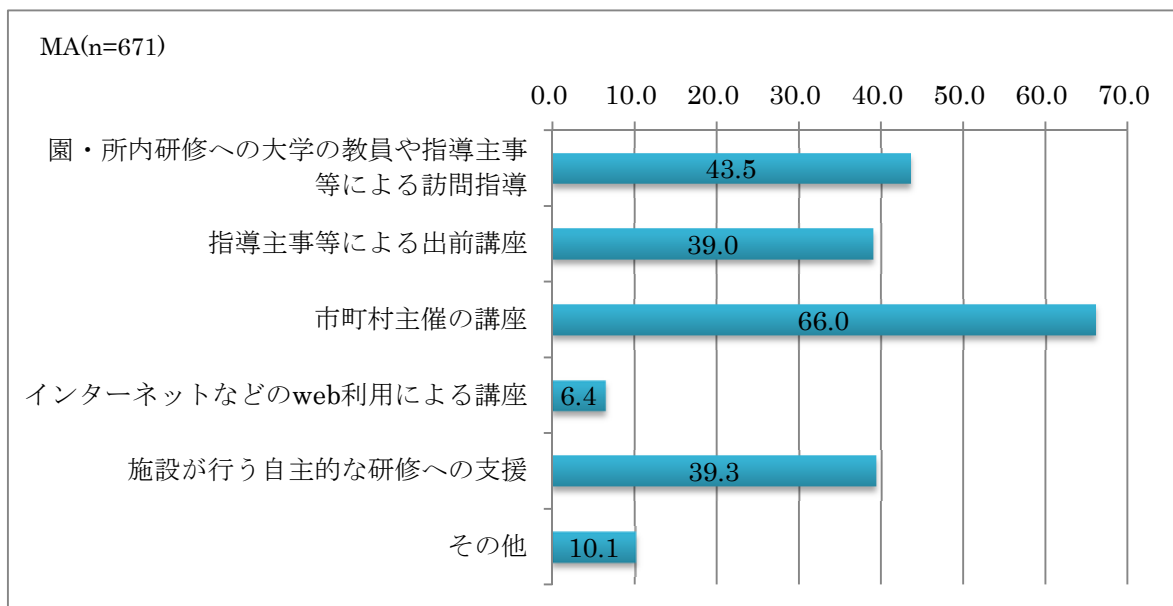
- 1年間の研修への参加回数は「0~20回」が約6割を占めている。1回当たりの参加人数は「0~5人」が8割を超え、最多

研修への参加状況については、「0~20回」が65.8%と最も高く、次いで「21~40回」(24.7%)、「41~60回」(7.0%)となっている。

研修への1回あたりの参加人数は、「0~5人」が8割以上(88.6%)を占めている。

(2) 教職員を対象とした研修に関する考え

問5 どのような研修だと参加しやすいですか。(当てはまるもの全て)



■「市町村主催の講座」が参加しやすいと感じている

参加しやすいと考える研修は、「市町村主催の講座」が 66.0%と最も高く、次いで「園・所内研修への大学の教員や指導主事等による訪問指導」(43.5%)、「施設が行う自主的な研修への支援」(39.3%)となっている。

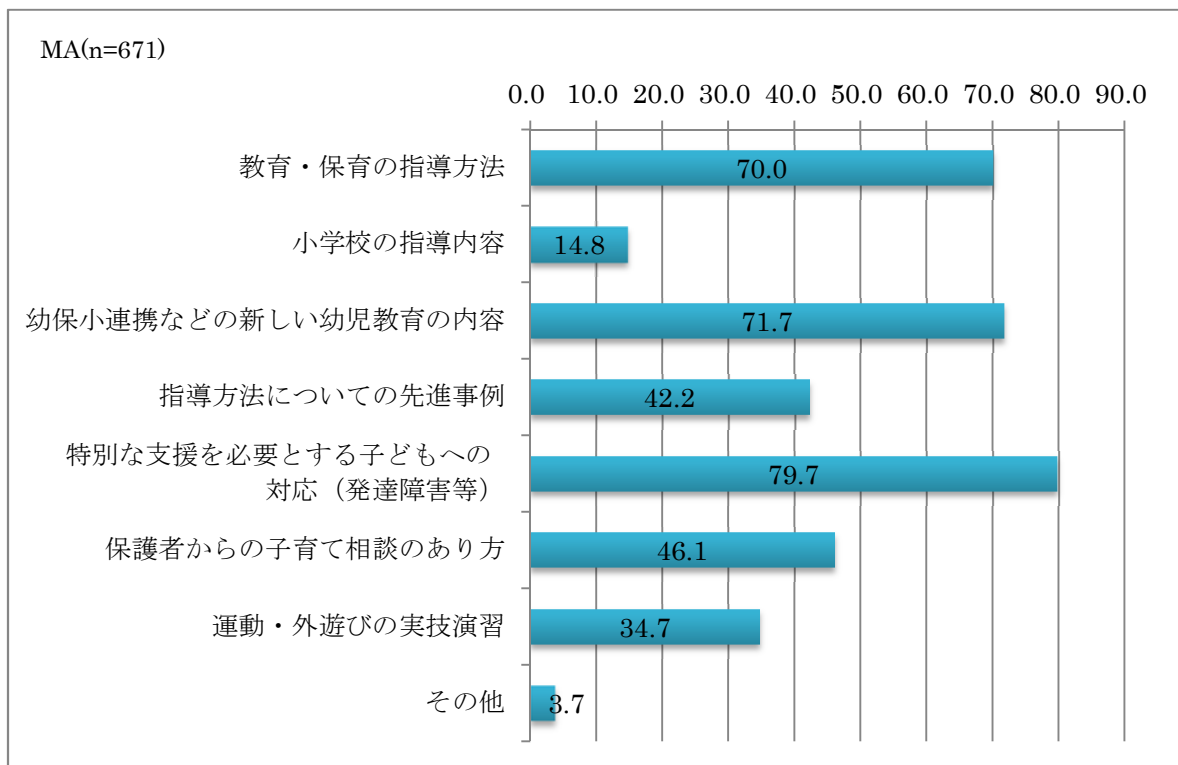
■どのような研修だと参加しやすいか(その他回答)

- ・茨城県私立幼稚園・認定こども園連合会等が主催の研修会
- ・県主催の各ブロックを開催場所とした研修、保育協議会の研修
- ・市主催の公立保育所向けの研修
- ・県社会福祉協議会などが行う研修、ブロックが行う研修
- ・民間の教育団体主催の講座
- ・幼児教育団体主催の研修
- ・園児が休みの時の研修なら参加しやすい。
- ・休日保育を実施していると、毎日休みの者がいる状態です。出前講座を、市単位で実施されれば、数名ずつ学ばせることが出来ると思っています。
- ・保育園を1日休みにして、全員が参加できる研修
- ・経費のかからない研修
- ・午後から半日の研修
- ・講演会、実技研修会
- ・実際の保育内容に実践できる研修
- ・他園と交流しているが各年齢等の学習(研修)
- ・町内他施設と合同での、大学の先生や専門家をよんでの研修

■参加しやすい研修（施設区分別）

	導 園・所内研修への大学の教員 や指導主事等による訪問指	指導主事等による出前講座	市町村主催の講座	インターネットなどのweb 利用による講座	施設が行う自主的な研修へ の支援	その他
幼稚園 (n=196)	48.0	45.4	76.0	4.6	38.3	7.7
保育所 (n=332)	40.1	36.1	64.5	8.1	35.5	12.3
認定こども園 (n=138)	45.7	37.7	56.5	5.1	50.0	8.7

問6 今後、充実が必要と考える研修内容（当てはまるもの全て）



■今後、充実が必要な研修内容は、約8割が「特別な支援を必要とする子どもへの対応（発達障害等）」と考えている

今後、充実が必要と考える研修内容は、「特別な支援を必要とする子どもへの対応（発達障害等）」が79.7%と最も高く、次いで「幼保小連携などの新しい幼児教育の内容」（71.7%）、「教育・保育の指導方法」（70.0%）と、それぞれ7割を超える結果となった。

施設区別にみると、「特別な支援を必要とする子どもへの対応（発達障害等）」が「幼稚園」（81.6%）と「保育所」（82.8%）で、「幼保小連携などの新しい幼児教育の内容」が「認定こども園」（72.5%）で最も高くなっている。

■今後、充実が必要と考える研修内容（その他回答）

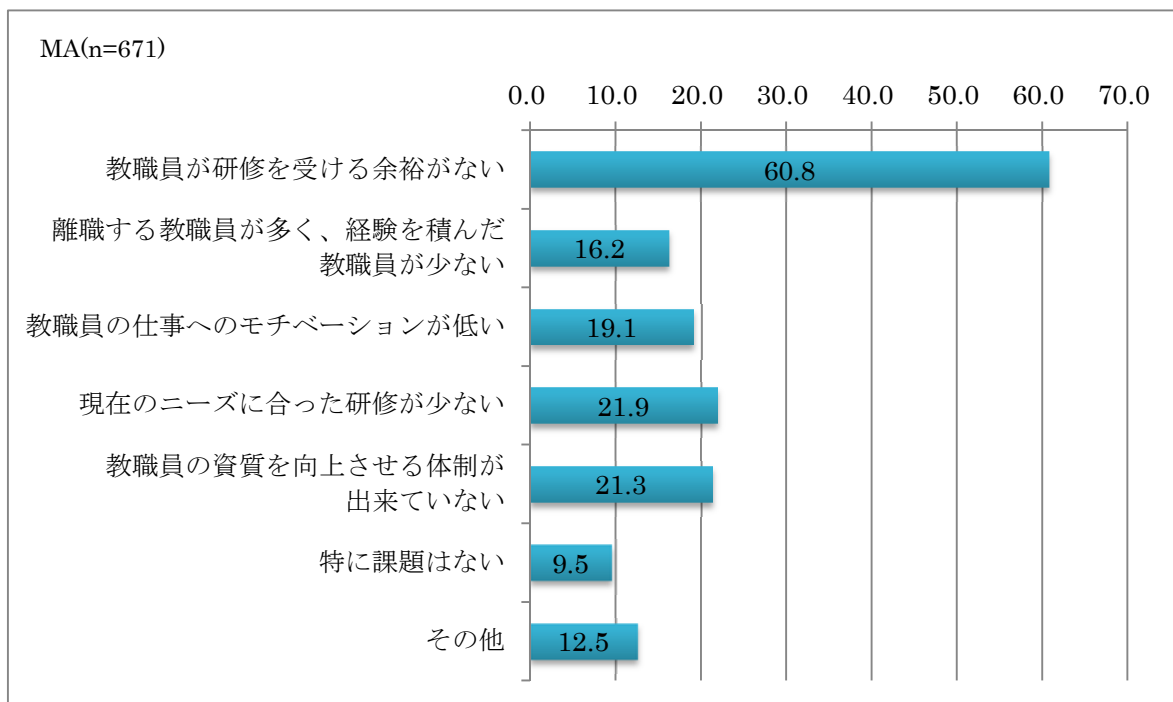
- ・ カウンセリング療法など子供の気持ちを感じてあげられる実技研修
- ・ 園児や、父兄に対する、あるいは職員間のコミュニケーションの向上に資するもの
- ・ 絵画
- ・ 各領域の実技演習
- ・ 室内外の環境構成
- ・ 職員の資質向上又は、社会性、人格性のあり方
- ・ 乳幼児期の発達と適切な指導法。生活リズム等基本的な正しい考え方
- ・ 保育士のメンタルケア
- ・ 保健・アレルギー対応
- ・ 保護者との関わり方（モンスターペアレント等）
- ・ 臨時職員に対する研修

■今後、充実が必要と考える研修内容（施設区分別）

	教育・保育の指導方法	小学校の指導内容	幼保小連携などの新しい幼児教育の内容	進事例 指導方法についての先	特別な支援を必要とする子どもへの対応	談のあり方 保護者からの子育て相	運動・外遊びの実技演習	その他
幼稚園 (n=196)	72.4	17.3	80.6	46.9	81.6	52.0	37.8	3.6
保育所 (n=332)	69.0	11.7	66.3	42.2	82.8	43.7	35.2	3.3
認定こども園 (n=138)	69.6	17.4	72.5	36.2	71.0	42.8	29.7	5.1

(3) 教職員の資質向上についての課題

問7 教職員の資質向上についての課題（当てはまるもの全て）



■約6割が「教職員が研修を受ける余裕がない」ことが、教職員の資質向上の課題だと考えている

教職員の資質向上についての課題は、「教職員が研修を受ける余裕がない」（60.8%）が約6割と最も高い。他は「現在のニーズに合った研修が少ない」（21.9%）、「教職員の資質を向上させる体制が出来ていない」（21.3%）、「教職員の仕事へのモチベーションが低い」（19.1%）、「離職する教職員が多く、経験を積んだ教職員が少ない」（16.2%）となっている。

■教職員の資質向上についての課題（その他回答）

- ・キャリアに対して意識が薄い。
- ・ニーズに合った研修の提供
- ・外部研修のみでなく内部研修の充実
- ・教職員の家庭環境、経験不足は研修で補えない。
- ・経験の少ない職員が多く、学級経営での問題解決能力が低く、指導する職員もいない現状
- ・結婚・出産期の保育士が増え、産休育休中のブランクがあり向上が中断してしまう。
- ・結婚後も続けられる職場環境の充実
- ・研修に参加する際の補充職員の確保
- ・研修の費用の負担、時間の確保
- ・研修内容等について質の高いものを行ってほしい
- ・県や市町村が主となって、教職員全体の資質を向上させる体制を整えて欲しい。
- ・非常勤職員の研修も必要と思います

- ・受けた研修をどう現場に活かしていくか。
- ・正職と非正規との職員がいるため非正規のモチベーションが低い。
- ・正職員が少ないため、入れ替わりが多く研修を受けても定着しにくい
- ・大学等教員養成校までのしっかりとした教育が急務
- ・低賃金による人材不足
- ・日本の教育の質との関係が多々ある
- ・保護者対応、専門的な知識の習得
- ・臨時職員にも参加可能な研修、研修参加者同士の協議よりも、教職員の資質・能力を高めるための具体的な方法を学ぶことができるような講義研修の機会がほしいです

■教職員の資質向上についての課題（施設区分別）

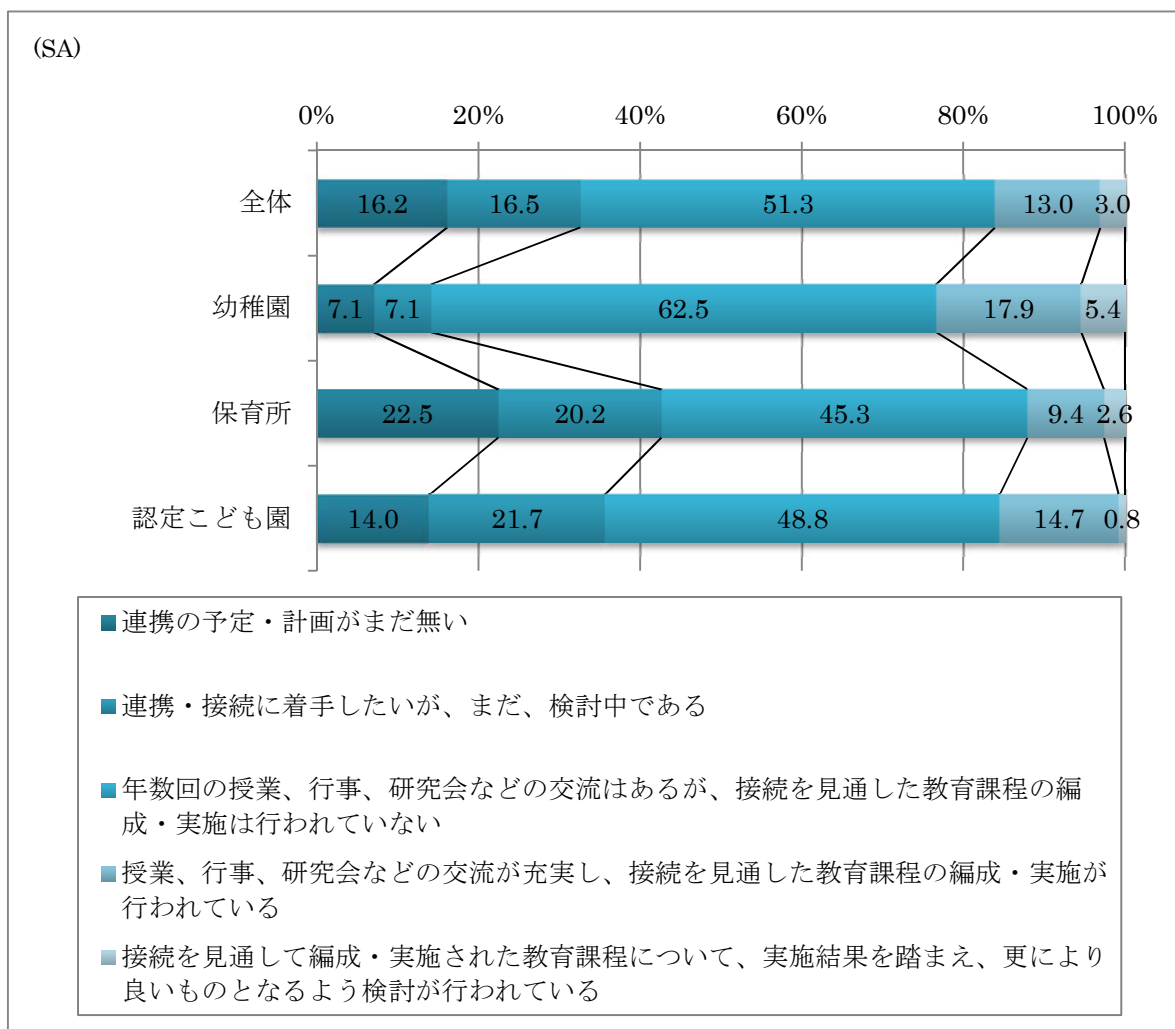
	教職員が研修を受ける余裕がない	職員が少ない	離職する教職員が多く、経験を積んだ教職員が少ない	教職員の仕事へのモチベーションが低い	現在のニーズに合った研修が少ない	教職員の資質を向上させる体制が出来ていない	特に課題はない	その他
幼稚園 (n=196)	64.3	17.9	12.8	17.3	21.9	11.7	15.8	
保育所 (n=332)	57.2	16.0	22.6	23.8	23.2	9.0	9.9	
認定こども園 (n=138)	64.5	15.2	19.6	23.9	16.7	7.2	13.8	

3 幼保小連携について



(1) 幼保小連携の状況

問8 貴施設と小学校との現在の交流の状況

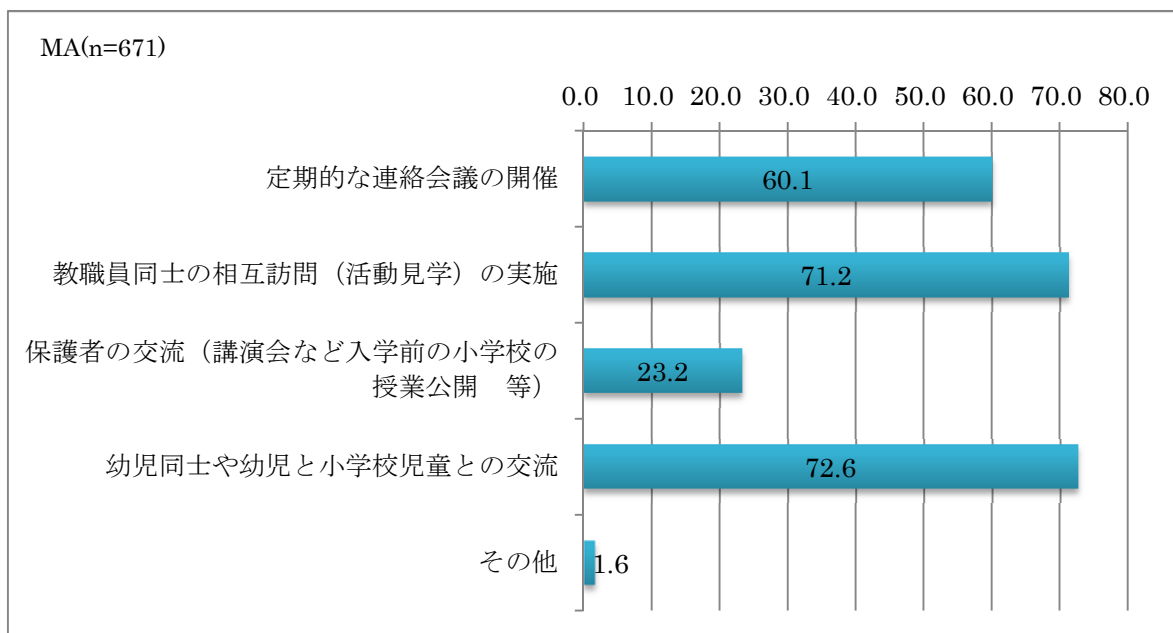


■ 約8割が、小学校と連携・接続を見通した交流ができていない

施設と小学校との現在の交流の状況については、「年数回の授業、行事、研究会などの交流はあるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない」(51.3%)が約半数を占めている。また、「連携・接続に着手したいが、まだ、検討中である」(16.5%)、「連携の予定・計画がまだ無い」(16.2%)を合わせた約8割(84.0%)が、連携・接続を見通した教育課程の編成・実施ができていないと考えられる。

(2) 幼保小連携を進めるために必要なこと

問9 幼保小連携を進めるために必要な交流の内容（当てはまるもの全て）



■ 幼保小連携を進めるために必要な交流の内容は「幼児同士や幼児と小学校児童との交流」「教職員同士の相互訪問（活動見学）の実施」が7割を超えている

幼保小連携を進めるために必要な交流の内容については、「幼児同士や幼児と小学校児童との交流」(72.6%)、「教職員同士の相互訪問（活動見学）の実施」(71.2%)が、いずれも7割を超えている。

施設区分別にみると、「幼児同士や幼児と小学校児童との交流」が「保育所」で68.4%と最も高くなっており、「教職員同士の相互訪問（活動見学）の実施」が「幼稚園」(82.7%)と「認定こども園」(71.0%)で最も高くなっている。

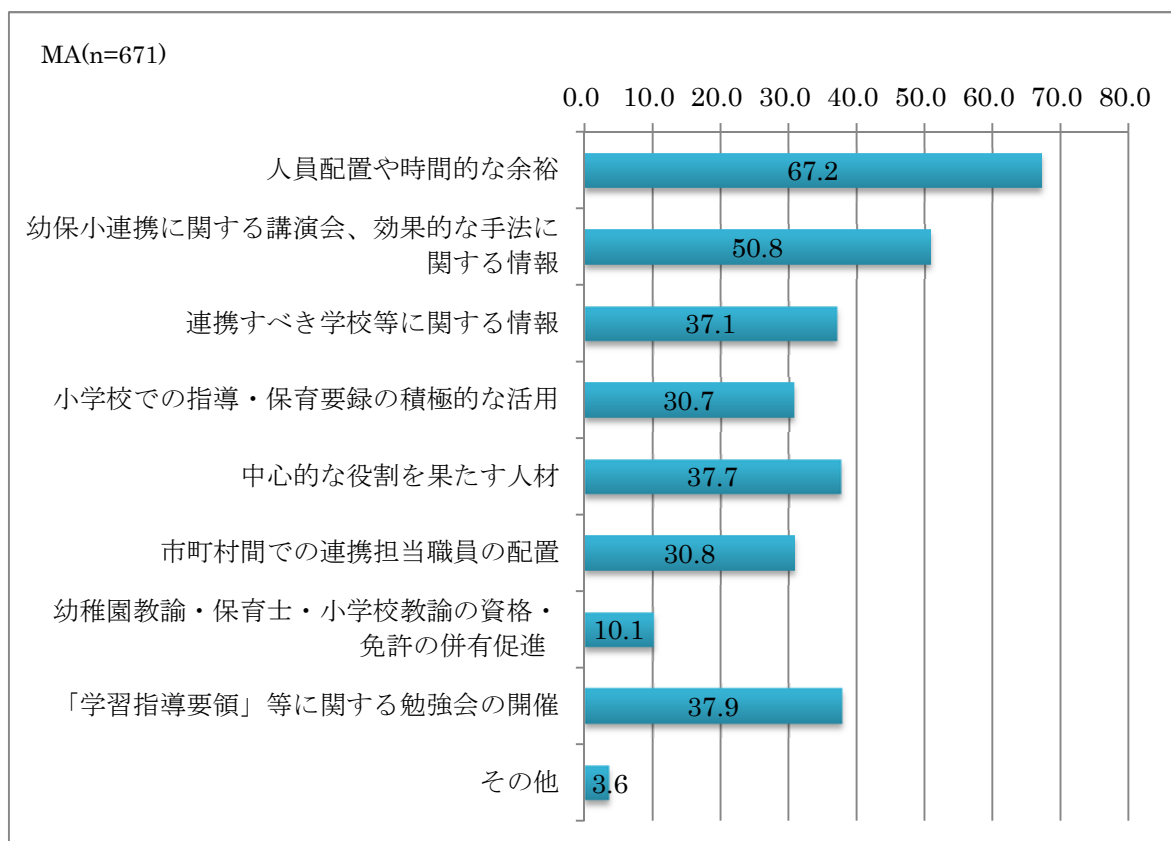
■ 幼保小連携を進めるために必要な交流の内容（その他回答）

- ・ 行事の共有、学習指導の共有
- ・ 小学校で就学前の子どもたちに望んでいる事があれば、出来る限り保育の中で指導して行きたいです。
- ・ 定期的ではなくても、連絡会議はあったら良いと思う。
- ・ 統廃合により近隣の学校がなくなってしまい、交流したくてもできないのが現状です。
- ・ 特別支援学級の教諭からの（主体的な）アドバイス
- ・ 年長後期の発達の姿と保育内容を伝えたり、1年生前期の内容等を知ったりする機会があるとよいです。
- ・ 幼小連携についての合同研修会の実施
- ・ 幼保と小学校の情報交換、申し送り。やっている学校と、やっていない学校があるので、スムーズな移行の為にもやった方がよい。書類には書けないこともある。

■幼保小連携を進めるために必要な交流の内容（施設区分別）

	定期的な連絡会議の開催	学）の実施 互訪問（活動見 教職員同士の相	授業公開 学前の小学校の （講演会など入 保護者の交流	幼児同士や幼児 と小学校児童と の交流	その他
幼稚園 (n=196)	61.7	82.7	23.0	82.1	1.5
保育所 (n=332)	59.9	64.5	26.2	68.4	0.9
認定こども園 (n=138)	58.0	71.0	17.4	69.6	3.6

問 10 今後、幼保小連携を進めるために必要と思われるもの（当てはまるもの全て）



■約7割が、今後、幼保小連携を進めるために「人員配置や時間的な余裕」が必要だと考えている

今後、幼保小連携を進めるために必要と思われるものは、「人員配置や時間的な余裕」が67.2%と最も高く、次いで「幼保小連携に関する講演会、効果的な手法に関する情報（先進事例など）」(50.8%)、「「学習指導要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・「幼稚

園教育要領」・「保育所保育指針」に関する勉強会の開催」(37.9%)となっている。

■今後、幼保小連携を進めるために必要と思われるもの（その他回答）

- ・何故連携が必要になってきたのかを、根本的に見直すこと
- ・管外保育児童に対しての情報交換の体制作り
- ・教育委員会の主導的な関わり
- ・公開保育・公開授業をいつでも可能にし、積極的な交流と情報交換
- ・市町村単位で幼保小の教職員（特に指導的立場にある）が参加し分科会などで意見交換等を行う。
- ・小学校が広範囲のため、移動手段の確保。
- ・小学校のやる気
- ・小学校教諭の保育園実習
- ・相互の共通理解、校長・園長のブロック会議
- ・保育内容連携 私立の建学精神のバラツキ
- ・目的に則した交流を進めるべきだという小学校校長への通達と実地調査・指導
- ・幼と保の連携がまず必要。
- ・幼稚園制度と保育所制度のスクラップ、アンド・ビルド
- ・幼保小連携コーディネーター

■今後、幼保小連携を進めるために必要と思われるもの（施設区分別）

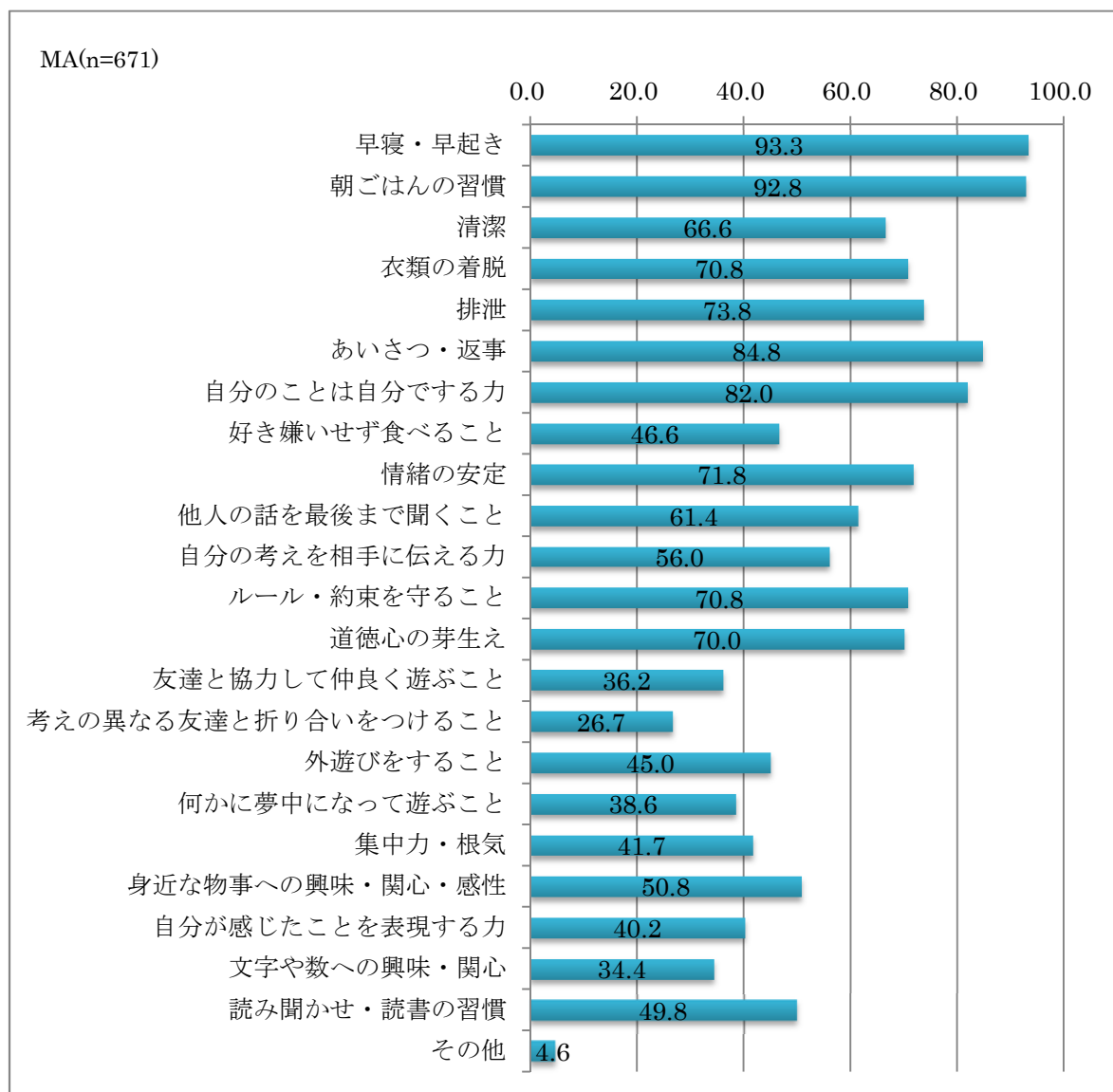
	人員配置や時間的な余裕	効果的な手法に関する情報	情報連携すべき学校等に関する	積極的な活用	小学校での指導・保育要録の	中心的な役割を果たす人材	市町村間での連携担当職員の配置	幼稚園教諭・保育士・小学校教諭の資格・免許の併有促進	勉強会の開催	「学習指導要領」等に関する	その他
幼稚園 (n=196)	74.0	57.7	29.1	24.5	44.9	31.6	8.7	44.9	0.5		
保育所 (n=332)	65.1	52.7	39.5	35.5	36.4	31.9	11.4	34.3	3.6		
認定こども園 (n=138)	65.2	37.0	41.3	27.5	30.4	26.8	8.7	36.2	8.0		

4 小学校への入学について



(1) 小学校入学までに、子どもたちに身に付けて欲しいこと

問 11 小学校入学までに「家庭」での教育において、子どもたちに身に付けて欲しいこと（当てはまるもの全て）



■「家庭」で子どもたちに身に付けて欲しいことは、「早寝・早起き」「朝ごはんの習慣」が9割以上

小学校入学までに「家庭」での教育において子どもたちに身に付けて欲しいことは、「早寝・早起き」(93.3%)、「朝ごはんの習慣」(92.8%)が、それぞれ9割を超えている。次いで「あいさつ・返事」(84.8%)となっており、生活習慣に関する項目が続いている。

■小学校入学までに「家庭」での教育において、子どもたちに身に付けて欲しいこと（その他回答）

- ・ことば使い、相手への思いやり
- ・できるかぎり親子でのスキンシップをはかる時間を持つこと。
- ・ノーメディアの習慣
- ・家の手伝い
- ・学校までの交通安全
- ・感謝の気持ち、思いやり、他人への気づかい
- ・危険を察知する力
- ・自己肯定感、愛情
- ・食事のマナー、食べられることへの感謝、安定した生活リズム
- ・祖父母等尊敬し、いたわる心
- ・体験・経験
- ・体力の向上
- ・命の尊さを身につける

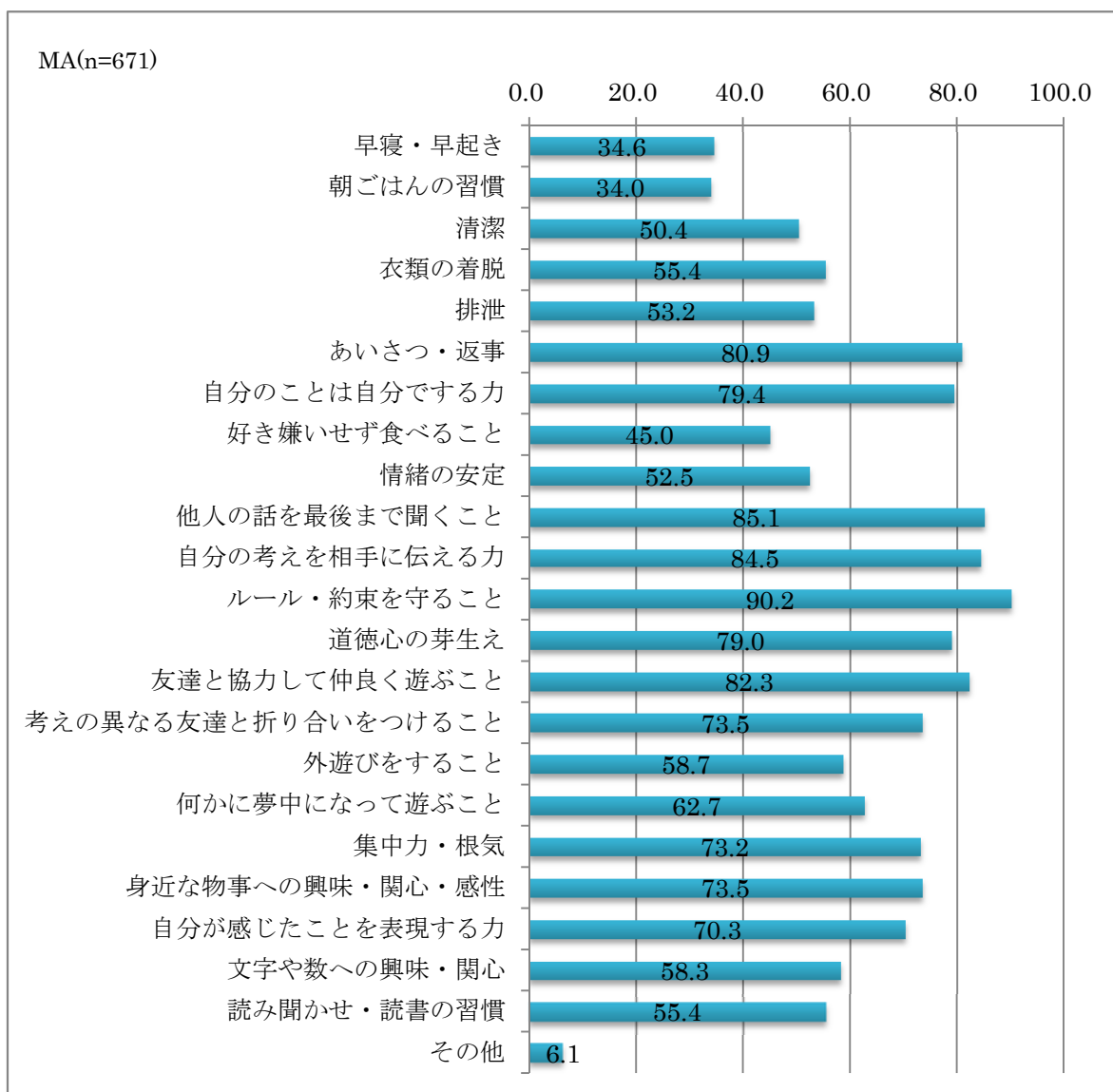
■小学校入学までに「家庭」での教育において、子どもたちに身に付けて欲しいこと（施設区分別）

	早寝・早起き	習慣 朝ごはんの	清潔	衣類の着脱	排泄	事 あいさつ・返	自分でする力 自分のことは	食べること 好き嫌いせず
幼稚園 (n=196)	94.9	92.3	67.9	78.1	81.6	90.8	90.3	46.9
保育所 (n=332)	92.8	93.1	64.8	66.0	70.2	82.5	78.9	44.6
認定こども園 (n=138)	92.0	92.8	68.1	72.5	71.7	81.9	76.8	50.0

	情緒の安定	他人の話を最後まで聞くこと	自分の考えを相手に伝える力	自分の考えを守ること	ルール・約束を守る	道徳心の芽生え	仲良く遊ぶこと 友達と協力して	考えの異なる友達と折り合いをつけること	と 外遊びをすること
幼稚園 (n=196)	73.5	64.8	57.7	68.4	68.4	31.6	28.1	45.9	
保育所 (n=332)	72.0	62.0	56.0	71.7	69.3	37.7	25.9	44.6	
認定こども園 (n=138)	68.8	54.3	52.2	71.0	73.2	39.1	26.8	44.2	

	何かに夢中になっ て遊ぶこと	集中力・根気	身近な物事への 興味・関心・感性	自分が感じたこ とを表現する力	味・関心 文字や数への興	読み聞かせ・読書 の習慣	その他
幼稚園 (n=196)	36.7	38.8	49.5	33.7	29.6	54.1	4.1
保育所 (n=332)	38.6	42.8	52.1	46.1	35.8	45.5	4.8
認定こども園 (n=138)	41.3	41.3	48.6	34.1	37.0	52.9	5.1

問 12 小学校入学までに「施設」での教育において、子どもたちに身に付けて欲しいこと（当てはまるもの全て）



■「施設」で子どもたちに身に付けて欲しいことは、「ルール・約束を守ること」が約9割で、
最多

小学校入学までに「施設」での教育において子どもたちに身に付けて欲しいことは、「ルール・約束を守ること」(90.2%)が最も高く、次いで「他人の話を最後まで聞くこと」(85.1%)、「自分の考えを相手に伝える力」(84.5%)となっており、他人とのかかわりに関する項目が続いている。

施設区分別にみると、「幼稚園」では「ルール・約束を守ること」(90.8%)、「他人の話を最後まで聞くこと」(90.3%)、「自分の考えを相手に伝える力」(88.8%)、「認定こども園」では「ルール・約束を守ること」(95.7%)、「自分の考えを相手に伝える力」(85.5%)、「他人の話を最後まで聞くこと」(84.8%)が高い割合を占めているが、「保育所」では「ルール・約束を守ること」(87.7%)、「友達と協力して仲良く遊ぶこと」(82.8%)、「他人の話を最後まで聞くこと」(82.2%)が高い割合を占めている。

■小学校入学までに「施設」での教育において、子どもたちに身に付けて欲しいこと（その他回答）

- ・ ノーメディアの習慣
- ・ 家庭での教育
- ・ 絵画、公共でのマナー
- ・ 学びに向かう好奇心
- ・ 感謝の気持ち、思いやり、他人への気づかい
- ・ 危険を察知し、とっさの時に身を守る知恵
- ・ 自分で考えて行動すること。見通しをもって生活すること。
- ・ 集団で生活をするための対応力
- ・ 食事のマナー、食べられることへの感謝、安定した生活リズム
- ・ 身の自立はあたりまえ
- ・ 生き物の飼育を通して命の大切さを知る 栽培を通して食育へつなげる
- ・ 体力の向上
- ・ 道徳心 エコについて ゴミの行方など
- ・ 命の尊さ

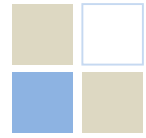
■小学校入学までに「施設」での教育において、子どもたちに身に付けて欲しいこと（施設
区分別）

	早寝・早起き	朝ごはんの習慣	清潔	衣類の着脱	排泄	あいさつ・返事	自分のことは自分でする力	好き嫌いせず食べるこ と
幼稚園 (n=196)	28.1	28.1	49.0	50.0	44.9	80.6	82.1	39.3
保育所 (n=332)	38.6	37.0	53.3	59.6	59.0	81.9	78.6	46.7
認定こども園 (n=138)	33.3	33.3	44.9	52.9	50.7	79.0	77.5	48.6

	情緒の安定	他人の話を最後まで聞くこと	伝える力 自分の考えを相手に	と ルール・約束を守るこ と	道徳心の芽生え	友達と協力して仲良 く遊ぶこと	考えの異なる友達と 折り合いをつけること	外遊びをすること
幼稚園 (n=196)	56.6	90.3	88.8	90.8	87.2	84.7	82.7	63.3
保育所 (n=332)	51.2	82.2	81.3	87.7	73.5	82.8	70.5	56.0
認定こども園 (n=138)	48.6	84.8	85.5	95.7	79.7	78.3	68.1	58.7

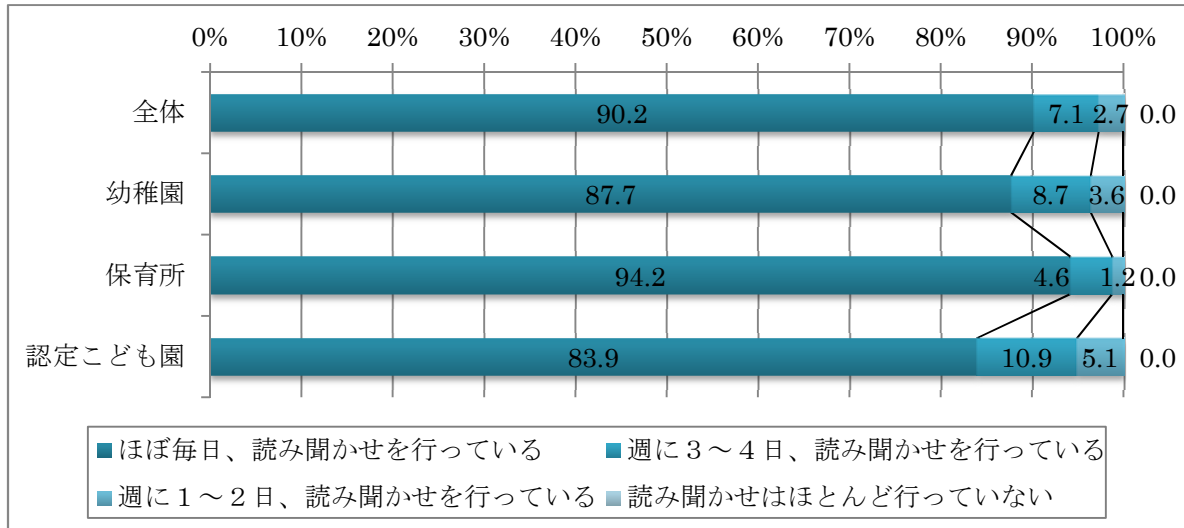
	遊ぶこと 何かに夢中になって	集中力・根気	味・関心・感性 身近な物事への興	自分が感じたこと を表現する力	関心 文字や数への興味・	習慣 読み聞かせ・読書の	その他
幼稚園 (n=196)	69.4	75.0	80.6	78.1	59.7	58.7	4.1
保育所 (n=332)	61.4	71.1	69.3	66.0	57.8	53.9	7.8
認定こども園 (n=138)	56.5	74.6	73.9	69.6	56.5	53.6	5.1

5 読書について



(1) 絵本の読み聞かせの頻度

問 13 貴施設において1週間あたりどの程度、絵本の読み聞かせを行っていますか。

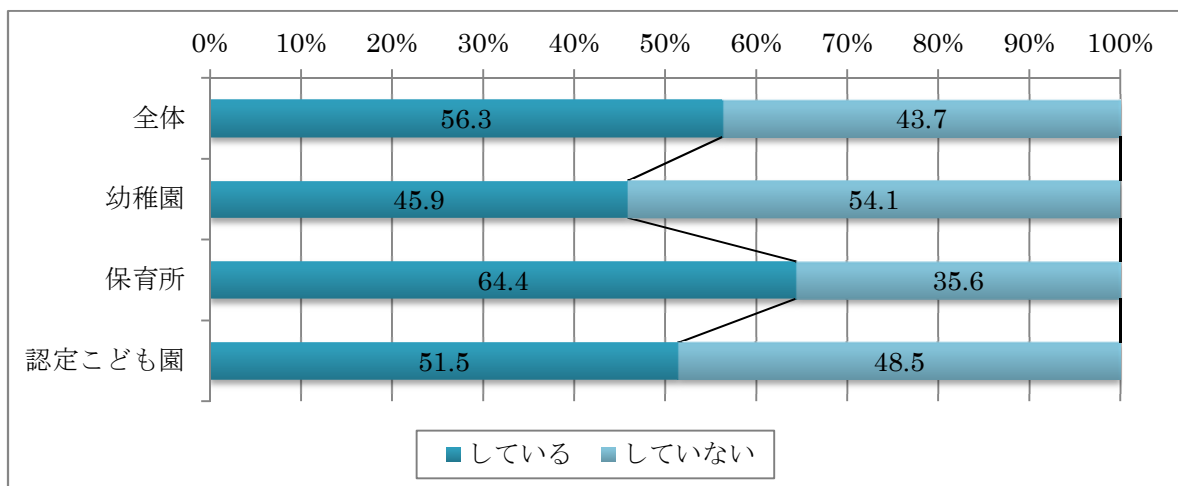


■絵本の読み聞かせは、ほとんどの施設で行われている

絵本の読み聞かせについては、「ほぼ毎日、読み聞かせを行っている」(90.2%)が約9割を占めている。また、「読み聞かせはほとんど行っていない」が0.0%であることから、ほとんどの施設において、1週間に1日以上は読み聞かせを行っていると考えられる。

(2) おすすめの絵本の紹介

問 14 貴施設では、保護者におすすめの絵本の紹介をしていますか。



■保育所の約6割が保護者へおすすめの絵本を紹介しているが、幼稚園では約4割で割合がやや低い

保護者へのおすすめの絵本の紹介については、「している」が56.3%、「していない」が43.7%となっており、おすすめの絵本を紹介している施設の割合がやや高い傾向にある。

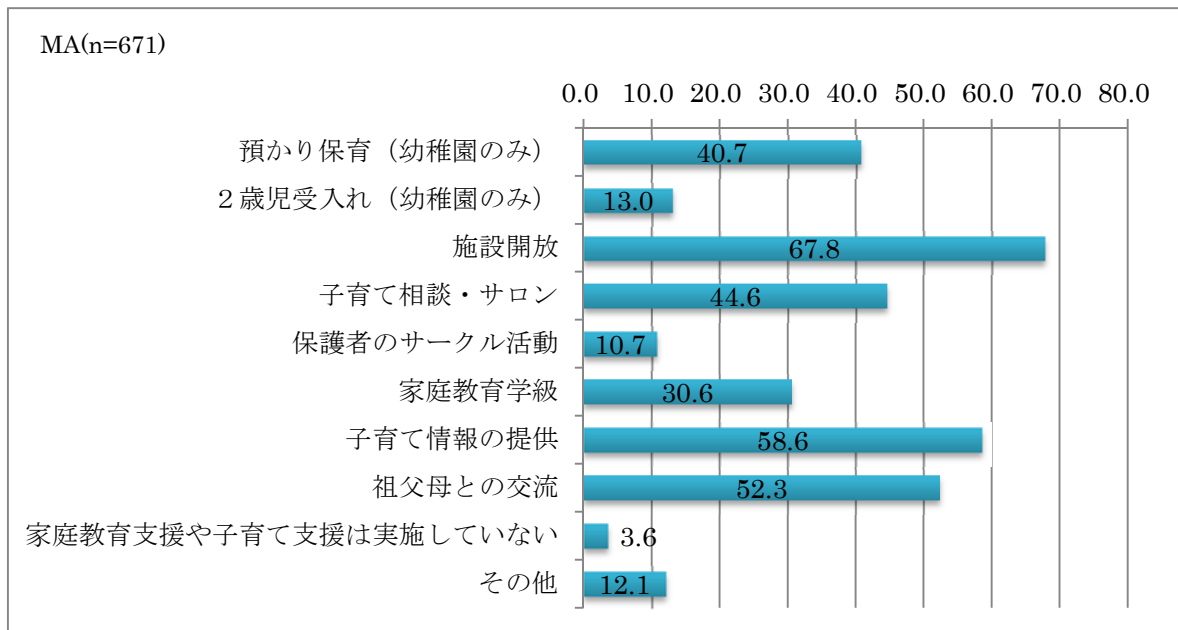
施設区分別でみると、「保育所」では「している」(64.4%)、「していない」(35.6%)となっており、他の施設より「している」割合がやや高くなっている。一方、「幼稚園」では「している」(45.9%)、「していない」(54.1%)となっており、他の施設と比べて「していない」割合がやや高くなっている。

6 家庭教育について



(1) 施設で実施している家庭教育支援・子育て支援

問 15 貴施設で実施している家庭教育支援・子育て支援の内容(当てはまるもの全て)



■施設が実施している家庭教育支援・子育て支援は、「施設開放」が約7割で、最多

施設で実施している家庭教育支援・子育て支援の内容は、「施設開放」が67.8%と最も高く、次いで「子育て情報の提供」(58.6%)、「祖父母との交流」(52.3%)となっている。

施設区分別にみると、「幼稚園」では「預かり保育」(77.6%)、「保育所」では「施設開放」(65.7%)「子育て情報の提供」(65.7%)、「認定こども園」では「施設開放」(81.9%)がそれぞれ最も高い割合を占めている。

■貴施設で実施している家庭教育支援・子育て支援の内容 (その他回答)

- ・おはなし会
- ・スポーツ教室、運動会
- ・一時保育、休日保育、子育て支援センター
- ・園庭開放
- ・各種講習
- ・保育参観の時と懇談会
- ・個別面談
- ・育児相談
- ・子育てワークショップ
- ・子育て支援センターの開設

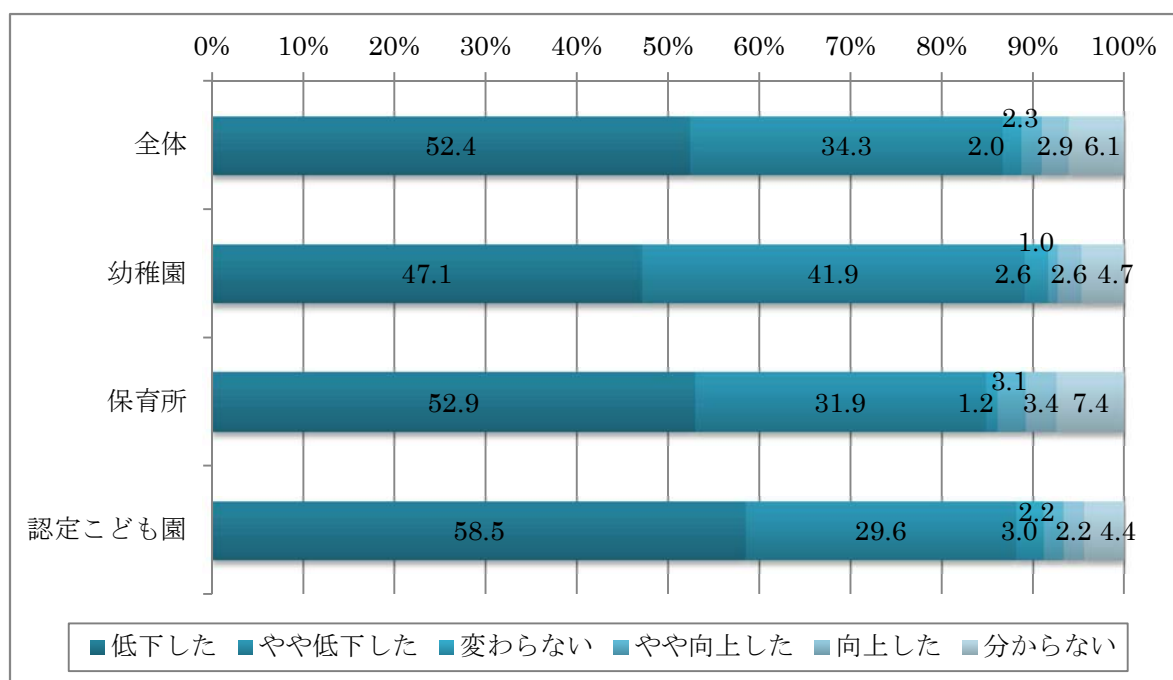
- ・施設訪問、交流
- ・親子教室
- ・世代間交流
- ・地域交流事業→行事への参加
- ・他機関、病院等への連携（情報提供含む）
- ・日常、親とのコミュニケーションを密にして、子育てについて話す。
- ・保護者会
- ・未就園児との交流
- ・未就園児体験保育

■貴施設で実施している家庭教育支援・子育て支援の内容（施設区分別）

	預かり保育（幼稚園のみ）	2歳児受入れ（幼稚園のみ）	施設開放	子育て相談・サロン	保護者のサークル活動	家庭教育学級	子育て情報の提供	祖父母との交流	家庭教育支援や子育て支援は実施していない	その他
幼稚園 (n=196)	77.6	13.3	60.7	21.4	12.2	66.3	44.9	52.6	0.5	13.3
保育所 (n=332)	5.1	1.8	65.7	48.2	5.4	8.7	65.7	50.9	6.6	10.8
認定こども園 (n=138)	73.2	38.4	81.9	66.7	21.0	32.6	61.6	54.3	0.7	13.8

(2) 家庭における教育力の変化

問 16 家庭における教育力が昔（30 年程度前）に比べてどのように変化していると感じますか。

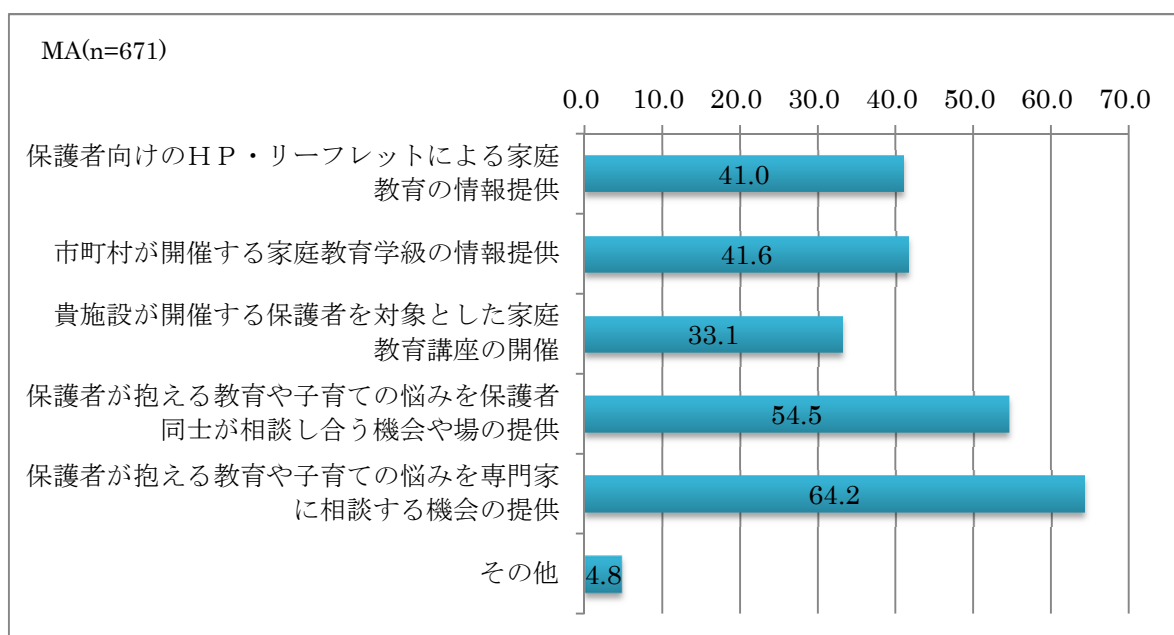


■ 8割以上が、家庭における教育力が「低下した」と感じている

昔（30年程度前）と比べた家庭における教育力について、「低下した」（52.4%）と「やや低下した」（34.3%）を合わせた割合が8割（86.7%）を超えており、「向上した」（2.9%）、「やや向上した」（2.3%）を合わせた割合（5.2%）を大幅に上回っている。

(3) 家庭教育を補う施設の取組

問 17 家庭教育を補うものとして貴施設ではどのような取組が必要だと思いますか。
(当てはまるもの全て)



■家庭教育を補うものとして必要だと考えられる取組は、「保護者が抱える教育や子育ての悩みを専門家に相談する機会の提供」が6割を超え、最多

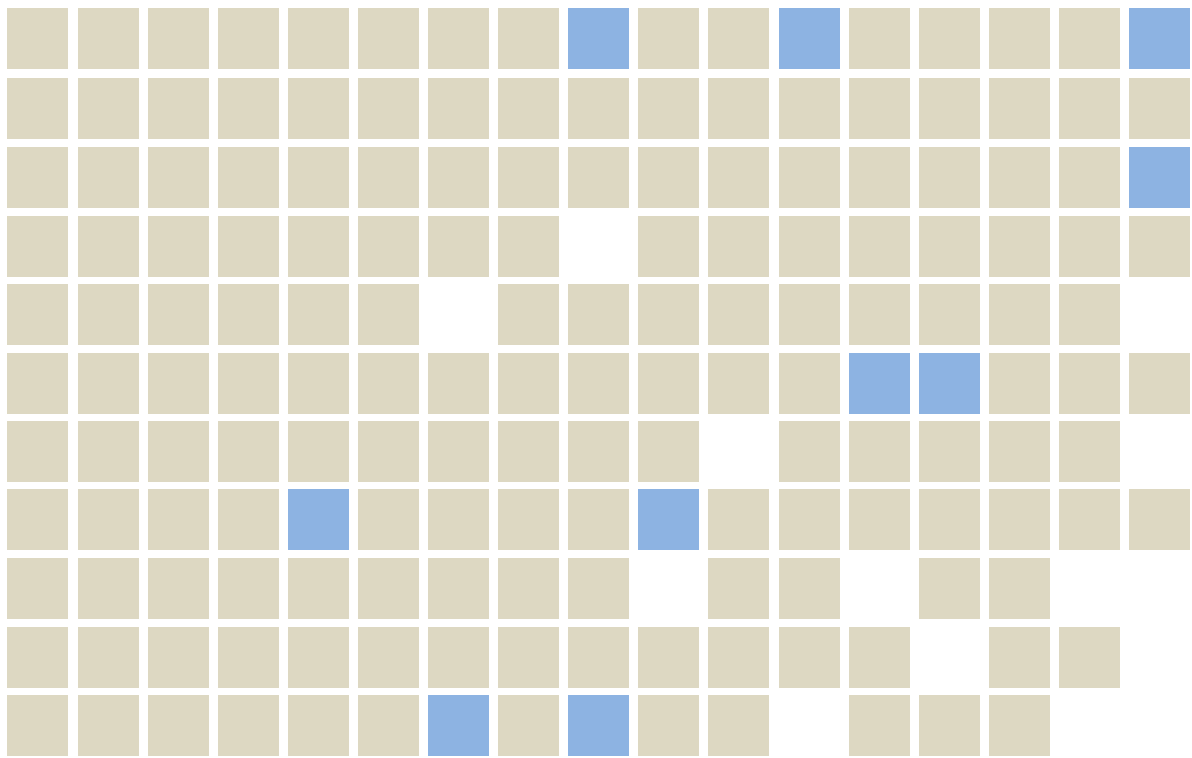
家庭教育を補うものとして必要だと考えられる取組は、「保護者が抱える教育や子育ての悩みを専門家に相談する機会の提供」が64.2%と最も高く、次いで「保護者が抱える教育や子育ての悩みを保護者同士が相談し合う機会や場の提供」(54.5%)となっている。

■家庭教育を補うものとして貴施設ではどのような取組が必要だと思いますか。(その他回答)

- ・ NPOによる社会教育の充実
- ・ おじいちゃんおばあちゃん、あるいは地域の年長者の積極的な「子育て」への参加、助言等があるといいのではないか。
- ・ それを知りたいと考えています。
- ・ 各クラス毎の懇談会
- ・ 施設が開催する講座への無料講師派遣
- ・ 社会の構造変革
- ・ 親の意識改革が必要だと思われれます。
- ・ 発達障害児の専門的相談員の紹介
- ・ 保護者との信頼関係を築けるよう、コミュニケーションをはかる。話しやすい人的環境を整える。
- ・ 毎月保育園通信を配布している。

■家庭教育を補うものとして貴施設ではどのような取組が必要だと思いますか。(施設区分別)

	保護者向けのHP・リーフレットによる家庭教育の情報提供	市町村が開催する家庭教育学級の情報提供	貴施設が開催する保護者を対象とした家庭教育講座の開催	保護者が抱える教育や子育ての悩みを保護者同士が相談し合う機会や場の提供	保護者が抱える教育や子育ての悩みを専門家に相談する機会の提供	その他
幼稚園 (n=196)	44.4	48.5	43.9	62.8	68.4	3.1
保育所 (n=332)	40.7	39.5	25.3	48.8	63.6	6.3
認定こども園 (n=138)	37.7	37.7	37.0	57.2	59.4	3.6



IV 資料



6 その他 ()

問6 今後、充実が必要と考える研修内容（当てはまるもの全てに「○」を付けてください）

- 1 教育・保育の指導方法
- 2 小学校の指導内容
- 3 幼保小連携などの新しい幼児教育の内容
- 4 指導方法についての先進事例
- 5 特別な支援を必要とする子どもへの対応（発達障害等）
- 6 保護者からの子育て相談のあり方
- 7 運動・外遊びの実技演習
- 8 その他 ()

問7 教職員の資質向上についての課題（当てはまるもの全てに「○」を付けてください）

- 1 教職員が研修を受ける余裕がない
- 2 離職する教職員が多く、経験を積んだ教職員が少ない
- 3 教職員の仕事へのモチベーションが低い
- 4 現在のニーズに合った研修が少ない
- 5 教職員の資質を向上させる体制が出来ていない
- 6 特に課題はない
- 7 その他 ()

3 幼保小連携について

問8 貴施設と小学校との現在の交流の状況

- 1 連携の予定・計画がまだ無い
- 2 連携・接続に着手したいが、まだ、検討中である
- 3 年数回の授業、行事、研究会などの交流はあるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない
- 4 授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている
- 5 接続を見通して編成・実施された教育課程について、実施結果を踏まえ、更により良いものとなるよう検討が行われている

問9 幼保小連携を進めるために必要な交流の内容（当てはまるもの全てに「○」を付けてください）

- 1 定期的な連絡会議の開催
- 2 教職員同士の相互訪問（活動見学）の実施
- 3 保護者の交流（講演会など入学前の小学校の授業公開 等）
- 4 幼児同士や幼児と小学校児童との交流
- 5 その他 ()

問10 今後、幼保小連携を進めるために必要と思われるもの（当てはまるもの全てに「○」を付けてください）

- 1 人員配置や時間的な余裕

- 2 幼保小連携に関する講演会，効果的な手法に関する情報（先進事例など）
- 3 連携すべき学校等に関する情報
- 4 小学校での指導・保育要録の積極的な活用
- 5 中心的な役割を果たす人材
- 6 市町村間での連携担当職員の配置
- 7 幼稚園教諭・保育士・小学校教諭の資格・免許の併有促進
- 8 「学習指導要領」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」・「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」に関する勉強会の開催
- 9 その他（ ）

4 小学校への入学について

問 11 小学校入学までに「家庭」での教育において，子どもたちに身に付けて欲しいこと（当てはまるもの全てに「○」を付けてください）

- | | | | |
|---------------------|------------------------|----------------|---------|
| 1 早寝・早起き | 2 朝ごはんの習慣 | 3 清潔 | 4 衣類の着脱 |
| 5 排泄 | 6 あいさつ・返事 | 7 自分のことは自分でする力 | |
| 8 好き嫌いせず食べること | 9 情緒の安定 | | |
| 10 他人の話を最後まで聞くこと | 11 自分の考えを相手に伝える力 | | |
| 12 ルール・約束を守ること | 13 善悪の判断など道徳心の芽生え | | |
| 14 友達と協力して仲良く遊ぶこと | 15 考えの異なる友達と折り合いをつけること | | |
| 16 外遊びをすること | 17 何かに夢中になって遊ぶこと | | |
| 18 物事を最後まで続ける集中力・根気 | 19 身近な物事への興味・関心・感性 | | |
| 20 自分が感じたことを表現する力 | 21 文字や数への興味・関心 | | |
| 22 読み聞かせ・読書の習慣 | 23 その他（ ） | | |

問 12 小学校入学までに「施設」での教育において，子どもたちに身に付けて欲しいこと（当てはまるもの全てに「○」を付けてください）

- | | | | |
|---------------------|------------------------|----------------|---------|
| 1 早寝・早起き | 2 朝ごはんの習慣 | 3 清潔 | 4 衣類の着脱 |
| 5 排泄 | 6 あいさつ・返事 | 7 自分のことは自分でする力 | |
| 8 好き嫌いせず食べること | 9 情緒の安定 | | |
| 10 他人の話を最後まで聞くこと | 11 自分の考えを相手に伝える力 | | |
| 12 ルール・約束を守ること | 13 善悪の判断など道徳心の芽生え | | |
| 14 友達と協力して仲良く遊ぶこと | 15 考えの異なる友達と折り合いをつけること | | |
| 16 外遊びをすること | 17 何かに夢中になって遊ぶこと | | |
| 18 物事を最後まで続ける集中力・根気 | 19 身近な物事への興味・関心・感性 | | |
| 20 自分が感じたことを表現する力 | 21 文字や数への興味・関心 | | |
| 22 読み聞かせ・読書の習慣 | 23 その他（ ） | | |

5 読書について

問 13 貴施設において1週間あたりどの程度，絵本の読み聞かせを行っていますか。

- 1 ほぼ毎日，読み聞かせを行っている

- 2 週に3～4日、読み聞かせを行っている
- 3 週に1～2日、読み聞かせを行っている
- 4 読み聞かせはほとんど行っていない

問14 貴施設では、保護者におすすめの絵本の紹介をしていますか。

- 1 している
- 2 していない

6 家庭教育について

問15 貴施設で実施している家庭教育支援・子育て支援の内容（当てはまるもの全てに「○」を付けてください）

- 1 預かり保育（幼稚園のみ）
- 2 2歳児受入れ（幼稚園のみ）
- 3 施設開放
- 4 子育て相談・サロン
- 5 保護者のサークル活動
- 6 家庭教育学級
- 7 子育て情報の提供
- 8 祖父母との交流
- 9 家庭教育支援や子育て支援は実施していない
- 10 その他（ ）

問16 家庭における教育力が昔（30年程度前）に比べてどのように変化していると感じますか。

- 1 低下した
- 2 やや低下した
- 3 変わらない
- 4 やや向上した
- 5 向上した
- 6 分からない

問17 家庭教育を補うものとして貴施設ではどのような取組が必要だと思えますか。（当てはまるもの全てに「○」を付けてください）

- 1 保護者向けのHP・リーフレットによる家庭教育の情報提供
- 2 市町村が開催する家庭教育学級の情報提供
- 3 貴施設が開催する保護者を対象とした家庭教育講座の開催
- 4 保護者が抱える教育や子育ての悩みを保護者同士が相談し合う機会や場の提供
- 5 保護者が抱える教育や子育ての悩みを専門家に相談する機会の提供
- 6 その他（ ）

問18 家庭教育を補うものとして、今後、地域にはどのようなことを期待しますか。

問19 家庭教育を補うものとして、今後、行政（県、市町村）にはどのようなことを期待しますか。

自由意見

問1 就学前教育について、ご意見があれば自由にお書きください。

問2 家庭教育について、ご意見があれば自由にお書きください。

問3 地域教育（近隣住民との関わり）について、ご意見があれば自由にお書きください。

ご回答ありがとうございました。

恐れ入りますが、同封した返信用封筒をご利用いただき、投函ください。

[回答期限] 平成28年9月9日（金）

[問合せ先] 茨城県教育庁 教育政策室 佐藤・猪瀬

電話 (029) 301-5143 (直通)

FAX (029) 301-5159

メール kyoikuseisaku@pref.ibaraki.lg.jp

(2) 単純集計表

問1 幼稚園・保育所・認定こども園（以下、「施設」とします）の区分 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	幼稚園	196	29.2
2	保育所	332	49.5
3	認定こども園	138	20.6
	幼保連携型	80	11.9
	幼稚園型	42	6.3
	保育所型	6	0.9
	不詳	10	1.5
	不詳	5	0.7
	サンプル数	671	100.0

問2 施設の国立・公立・私立の区分 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	国立	1	0.1
2	公立	282	42.0
3	私立	376	56.0
	不詳	12	1.8
	サンプル数	671	100.0

問3 教職員の人数及び資格（平成28年4月1日現在） (記述)

No.	カテゴリ	総数	構成比
	全教職員数（事務職員は除く）	11,061	-
	うち保育士と幼稚園教諭の両方の資格を持つ者の数	8,802	-
	保育士のみの資格を持つ者の数	881	-
	幼稚園教諭のみの資格を持つ者の数	428	-

問4 平成27年度に実施された教職員を対象とした研修について (記述)

【研修への参加回数 (合計)】

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	0～20回	402	59.9
2	21～40回	151	22.5
3	41～60回	43	6.4
4	61～80回	11	1.6
5	81～10回	2	0.3
6	101回以上	2	0.3
	不詳	60	8.9
	サンプル数	671	100.0

【研修への1回当たりの参加人数 (平均)】

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	0～5人	499	74.4
2	6～10人	48	7.2
3	11～15人	5	0.7
4	16～20人	7	1.0
5	20人以上	4	0.6
	不詳	108	16.1
	サンプル数	671	100.0

問5 どのような研修だと参加しやすいですか。 (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	園・所内研修への大学の教員や指導主事等による訪問指導	292	43.5
2	指導主事等による出前講座	262	39.0
3	市町村主催の講座	443	66.0
4	インターネットなどのweb利用による講座	43	6.4
5	施設が行う自主的な研修への支援	264	39.3
6	その他	68	10.1
	サンプル数	671	100.0

問6 今後、充実が必要と考える研修内容 (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	教育・保育の指導方法	470	70.0
2	小学校の指導内容	99	14.8
3	幼保小連携などの新しい幼児教育の内容	481	71.7
4	指導方法についての先進事例	283	42.2
5	特別な支援を必要とする子どもへの対応(発達障害等)	535	79.7
6	保護者からの子育て相談のあり方	309	46.1
7	運動・外遊びの実技演習	233	34.7
8	その他	25	3.7
	サンプル数	671	100.0

問7 教職員の資質向上についての課題 (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	教職員が研修を受ける余裕がない	408	60.8
2	離職する教職員が多く、経験を積んだ教職員が少ない	109	16.2
3	教職員の仕事へのモチベーションが低い	128	19.1
4	現在のニーズに合った研修が少ない	147	21.9
5	教職員の資質を向上させる体制が出来ていない	143	21.3
6	特に課題はない	64	9.5
7	その他	84	12.5
	サンプル数	671	100.0

問8 貴施設と小学校との現在の交流の状況 (SA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	連携の予定・計画がまだ無い	101	15.1
2	連携・接続に着手したいが、まだ、検討中である	103	15.4
3	年数回の授業、行事、研究会などの交流はあるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない	320	47.7
4	授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている	81	12.1
5	接続を見通して編成・実施された教育課程について、実施結果を踏まえ、更により良いものとなるよう検討が行われている	19	2.8
	不詳	47	7.0
	サンプル数	671	100.0

問9 幼保小連携を進めるために必要な交流の内容 (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	定期的な連絡会議の開催	403	60.1
2	教職員同士の相互訪問(活動見学)の実施	478	71.2
3	保護者の交流(講演会など入学前の小学校の授業公開等)	156	23.2
4	幼児同士や幼児と小学校児童との交流	487	72.6
5	その他	11	1.6
	サンプル数	671	100.0

問10 今後、幼保小連携を進めるために必要と思われるもの (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	人員配置や時間的な余裕	451	67.2
2	幼保小連携に関する講演会、効果的な手法に関する情報	341	50.8
3	連携すべき学校等に関する情報	249	37.1
4	小学校での指導・保育要録の積極的な活用	206	30.7
5	中心的な役割を果たす人材	253	37.7
6	市町村間での連携担当職員の配置	207	30.8
7	幼稚園教諭・保育士・小学校教諭の資格・免許の併有促進	68	10.1
8	「学習指導要領」等に関する勉強会の開催	254	37.9
9	その他	24	3.6
	サンプル数	671	100.0

問11 小学校入学までに「家庭」での教育において、子どもたちに身に付けて欲しいこと (MA)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	早寝・早起き	626	93.3
2	朝ごはんの習慣	623	92.8
3	清潔	447	66.6
4	衣類の着脱	475	70.8
5	排泄	495	73.8
6	あいさつ・返事	569	84.8
7	自分のことは自分でする力	550	82.0
8	好き嫌いせず食べること	313	46.6
9	情緒の安定	482	71.8
10	他人の話を最後まで聞くこと	412	61.4
11	自分の考えを相手に伝える力	376	56.0
12	ルール・約束を守ること	475	70.8
13	道徳心の芽生え	470	70.0
14	友達と協力して仲良く遊ぶこと	243	36.2

15	考えの異なる友達と折り合いをつけること	179	26.7
16	外遊びをすること	302	45.0
17	何かに夢中になって遊ぶこと	259	38.6
18	集中力・根気	280	41.7
19	身近な物事への興味・関心・感性	341	50.8
20	自分が感じたことを表現する力	270	40.2
21	文字や数への興味・関心	231	34.4
22	読み聞かせ・読書の習慣	334	49.8
23	その他	31	4.6
	サンプル数	671	100.0

問 12 小学校入学までに「施設」での教育において、子どもたちに身に付けて欲しいこと (M A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	早寝・早起き	232	34.6
2	朝ごはんの習慣	228	34.0
3	清潔	338	50.4
4	衣類の着脱	372	55.4
5	排泄	357	53.2
6	あいさつ・返事	543	80.9
7	自分のことは自分でする力	533	79.4
8	好き嫌いせず食べること	302	45.0
9	情緒の安定	352	52.5
10	他人の話を最後まで聞くこと	571	85.1
11	自分の考えを相手に伝える力	567	84.5
12	ルール・約束を守ること	605	90.2
13	道徳心の芽生え	530	79.0
14	友達と協力して仲良く遊ぶこと	552	82.3
15	考えの異なる友達と折り合いをつけること	493	73.5
16	外遊びをすること	394	58.7
17	何かに夢中になって遊ぶこと	421	62.7
18	集中力・根気	491	73.2
19	身近な物事への興味・関心・感性	493	73.5
20	自分が感じたことを表現する力	472	70.3
21	文字や数への興味・関心	391	58.3
22	読み聞かせ・読書の習慣	372	55.4
23	その他	41	6.1
	サンプル数	671	100.0

問 13 貴施設において1週間あたりどの程度、絵本の読み聞かせを行っていますか。 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	ほぼ毎日、読み聞かせを行っている	601	89.6
2	週に3～4日、読み聞かせを行っている	47	7.0
3	週に1～2日、読み聞かせを行っている	18	2.7
4	読み聞かせはほとんど行っていない	0	0.0
	不詳	5	0.7
	サンプル数	671	100.0

問 14 貴施設では、保護者におすすめの絵本の紹介をしていますか。 (S A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	している	374	55.7
2	していない	290	43.2
	不詳	7	1.0
	サンプル数	671	100.0

問 15 貴施設で実施している家庭教育支援・子育て支援の内容 (M A)

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	預かり保育 (幼稚園のみ)	273	40.7
2	2歳児受入れ (幼稚園のみ)	87	13.0
3	施設開放	455	67.8
4	子育て相談・サロン	299	44.6
5	保護者のサークル活動	72	10.7
6	家庭教育学級	205	30.6
7	子育て情報の提供	393	58.6
8	祖父母との交流	351	52.3
9	家庭教育支援や子育て支援は実施していない	24	3.6
10	その他	81	12.1
	サンプル数	671	100.0

問 16 家庭における教育力が昔（30 年程度前）に比べてどのように変化していると感じますか。

（SA）

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	低下した	342	51.0
2	やや低下した	224	33.4
3	変わらない	13	1.9
4	やや向上した	15	2.2
5	向上した	19	2.8
6	分からない	40	6.0
	不詳	18	2.7
	サンプル数	671	100.0

問 17 家庭教育を補うものとして貴施設ではどのような取組が必要だと思いますか。（MA）

No.	カテゴリ	件数	構成比
1	保護者向けのHP・リーフレットによる家庭教育の情報提供	275	41.0
2	市町村が開催する家庭教育学級の情報提供	279	41.6
3	貴施設が開催する保護者を対象とした家庭教育講座の開催	222	33.1
4	保護者が抱える教育や子育ての悩みを保護者同士が相談し合う機会や場の提供	366	54.5
5	保護者が抱える教育や子育ての悩みを専門家に相談する機会の提供	431	64.2
6	その他	32	4.8
	サンプル数	671	100.0

茨城県就学前教育・家庭教育実態調査報告書
平成 29 年 1 月

発 行 茨城県教育庁 教育政策室
〒310-8555 茨城県水戸市笠原町 978-6
TEL 029(301)5143

調査実施機関 東水戸データサービス株式会社
〒310-0004 茨城県水戸市青柳町 3896 番地
TEL 029(291)8800
